

三菱マテリアル株式会社 I R 決算説明会資料



北米生コン工場（RRM社）

2015年11月12日
取締役社長 竹内 章

目次

1. 業績サマリー (P4-5)
2. 個別事業の取り組み (P7-10)
3. 総括 (P12-14)

1. 業績サマリー

上期実績

上期実績

インドネシアの製錬所設備トラブル影響があったが、北米セメント事業の伸長、円安効果などにより営業利益は増益。経常利益は鉱山収益の落ち込みなどにより微減益。当期純利益は関係会社株式売却益などにより大幅増益。

前年同期比

	15年3月期 上期実績	16年3月期 上期実績	増減
売上高	7,511億円	7,095億円	△416億円
営業利益	340	361	+21
経常利益	400	389	△11
当期純利益	232	457	+225

前回予想比

原料価格が想定以上に下落したアルミ事業の上振れなどにより、各利益とも前回予想を超過達成。

	16年3月期 上期修正予想 (15年8月6日公表)	16年3月期 上期実績	増減
売上高	7,400億円	7,095億円	△305億円
営業利益	340	361	+21
経常利益	375	389	+14
当期純利益	410	457	+47

通期業績予想

通期業績予想

前回予想比

銅価の前提引き下げに加え、中国市場でのセメント及び超硬製品の販売減などを織り込んだ結果、営業利益及び経常利益を前回予想比で減益へ修正。一方、当期純利益については法人税等の減少などにより据え置き。
(年間配当予想は10円/株で据え置き)

	16年3月期 前回予想 (15年5月12日公表)	16年3月期 今回予想	増 減	15年3月期 実績
売上高	15,800億円	14,800億円	△1,000億円	15,172億円
営業利益	850	830	△20	718
経常利益	920	880	△40	810
当期純利益	650	650	—	561
一株配当金(年間)	10円	10円	—	8円
為替(円/USD)	118円	121円	+3円	110円
銅価格(LME)	270¢/lb	248¢/lb	△22¢/lb	297¢/lb

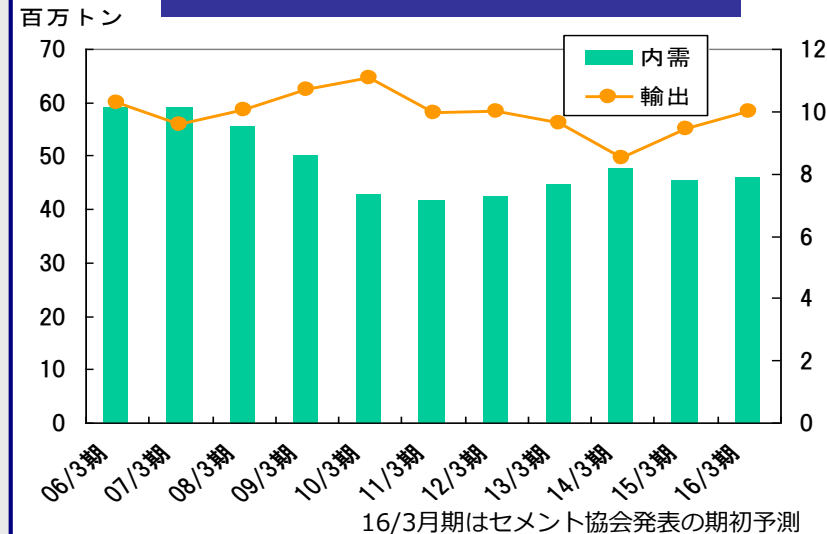
2. 個別事業の取り組み

セメント事業

国内 高稼働率維持と収益性向上

- ◆ 輸出による柔軟な対応
 - 九州工場の輸出能力増強を検討
- ◆ 産廃物処理の高付加価値化推進
 - 廃石膏ボード粉処理能力を5倍へ
- ◆ 石灰石砕砂設備の能力増強
 - 年産150万トン体制へ

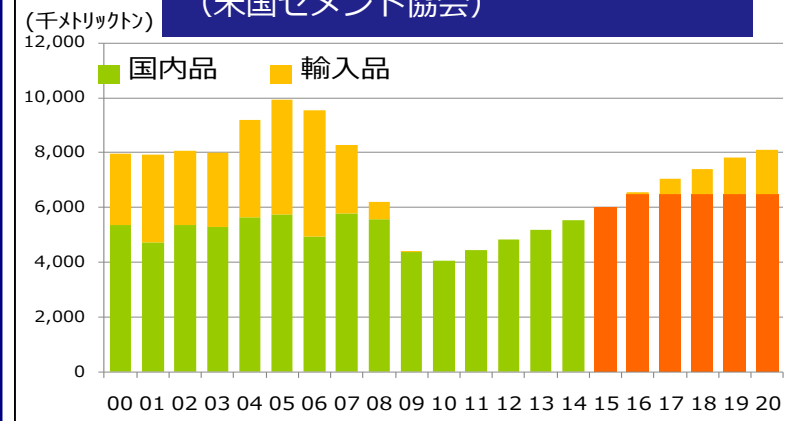
内需と輸出の推移 (セメント協会)



北米 収益柱の生コン事業拡大

- ◆ セメント供給体制の拡充
 - 輸入ターミナル拡充 (既存・新規)
- ◆ 生コン事業のさらなる拡大
 - 工場新設・買収、骨材確保

南カリフォルニアのセメント需要推移 (米国セメント協会)



金属事業

鉱山 権益鉱比率50%を目指す

- ◆ 新規鉱山の開発（サワカルプロジェクト等）

製錬 持続的かつ安定的に収益を拡大

- ◆ 買鉱条件の改善
- ◆ リサイクル事業の拡大
 - E-Scrap(金銀滓)処理能力を増強



金銀滓(E-Scrap)

銅加工 戦略製品拡販

- ◆ 新合金「MNEX®」の採用推進
- ◆ 鉛フリー製品「エコブラス®」の拡販



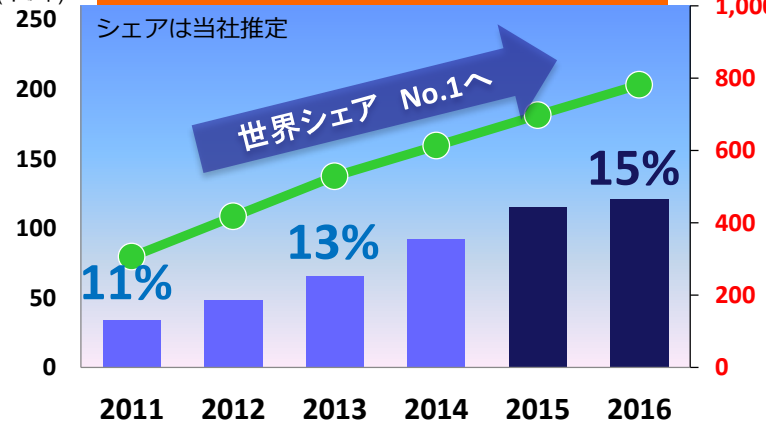
直島製錬所のE-Scrapの受入・処理能力、世界最大規模へ

- 1) 投資額 : 約 50億円
- 2) 設備増強内容: 受入サンプリング設備、分析設備、処理設備など
- 3) 処理能力 : 約 11万トン/年 (+約 3万トン)
- 4) 完工予定 : 2016年4月

当社処理量
(千t/年)

E-Scrap処理量推移(直島、小名浜)

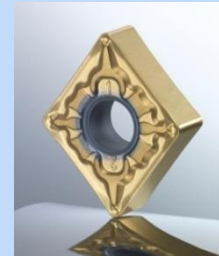
世界発生量
(千t/年)



加工事業

超硬 世界シェア10%超へ

- ◆ 海外拠点の拡充
- ◆ 産業別チームによる営業力強化
- ◆ ソリューション提供力の向上



インサート

市場規模

超硬切削工具市場規模 : 1兆4000億円/年(2014年)

北中南米市場

欧州市場

アジア市場(うち日本)

4,200(30%)

4,000(29%)

5,800(41%)

2,100(15%)

出所: 当社推定

◆ 海外販売・製造拠点の拡充状況

海外新規販売拠点の開設状況

東欧: トルコ (14年7月)

中国: 武漢 (14年7月)

青島 (14年8月)

大連 (15年6月)

深セン (15年9月)

ベトナム: ホーチミン (15年5月)

インド: アーメダバード (15年10月)

海外製造拠点の増強状況

北米: MTA社→インドミル生産開始 (15年4月)

RFM社→金物工場の移転・拡張(15年12月予定)

スペイン: MME社→インサート増強 (14年12月)

(ドリル、インドミルの生産増強は16年3月に予定)

インドネシア: MMF社→インドミル能力倍増・ドリル生産開始
(16年10月頃を予定)

電子材料事業・アルミ事業

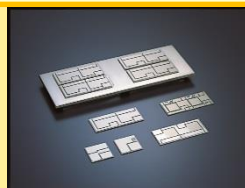
電子材料事業

高付加価値製品の戦力化

- ◆ 機能材料
 - スマートフォン向け精密実装材料の新製品市場投入・量産
 - DBA基板の電鉄・産業機器向け拡販



精密実装材料



DBA基板

◆ 電子デバイス

- ラオス新拠点での量産開始



世界最薄フレキシブルサーマスタセンサ



電源回路向け、最小クラスのサーミアブソーバ

アルミ事業

戦略製品のグローバル展開による成長力強化

- ◆ 圧延事業
 - 熱交材の海外製造拠点を拡充

海外4カ国目となるインドで、
本年12月から量産開始予定

◆ 製缶事業

- ボトル缶の製造ライン強化
- ボトル缶の海外展開検討



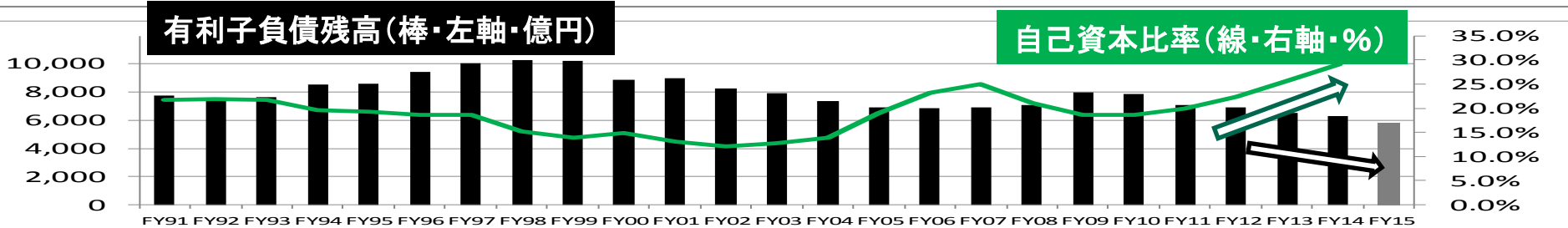
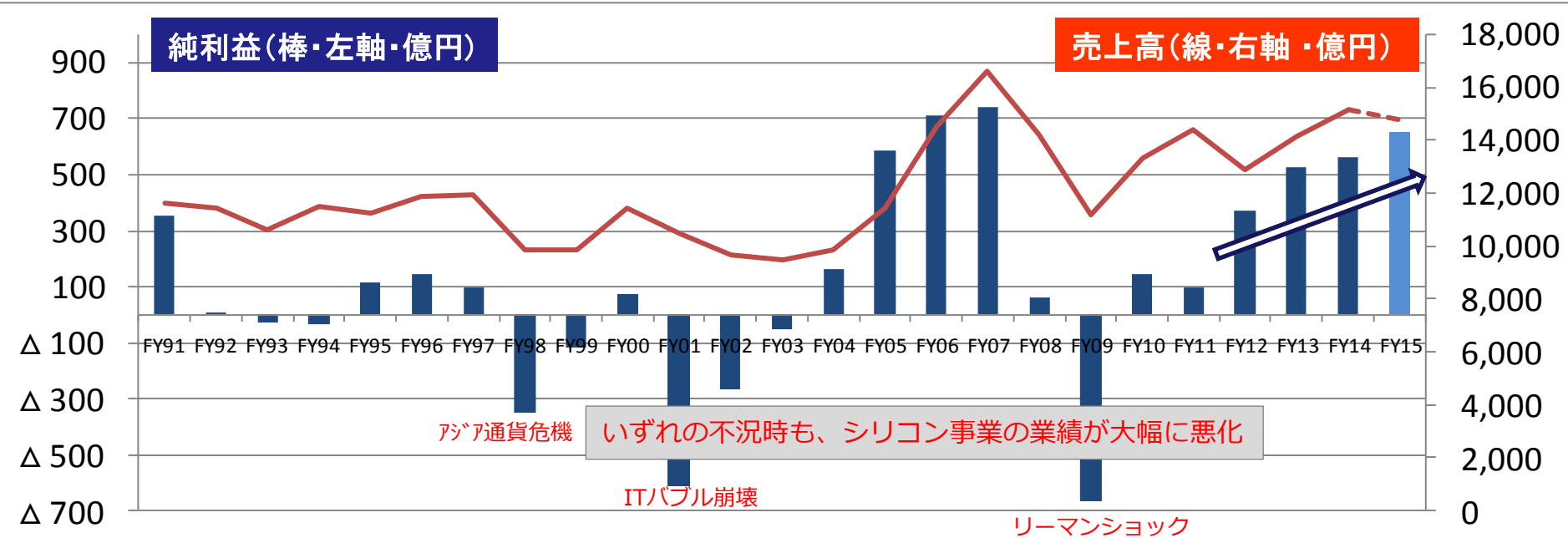
熱交換器用材料（押出多孔管）



3. 総括

三菱マテリアル発足後25年間の業績・財務の推移

景気変動の波に業績が左右され、09年度まで幾度の最終赤字を計上したが、ここ数年間の純利益は安定的に回復。財務体質も発足後の最高水準へ。



事業構造の改革（vs 08年3月期）

体質強化を進めてきた結果、より安定的な収益構造・財務体質へ変化

前回利益ピークの08年3月期と今年度予想を比較した事業構造等の変化

セメント	<p>事業環境：内需 55.5 → 45.0百万t/年、南CA需要 7.5 → 6.0百万 t/年（回復途上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 国内：産廃処理収入の増加 約 25%増 ◆ 北米：生コン事業の強化（RRM社の持分100%取得完了）
金 属	<p>事業環境：銅価 344 → 248 ¢/lb、為替 114 → 121円/USD</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ E-Scrap処理開始 ◆ 銅加工事業の再編・体質強化
加 工	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 超硬製品事業への経営資源集中（主力製品のインサート販売数量/筑波 約 25%増）
電子材料	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ポリシリコン事業に係る国内設備減損
アルミ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 製缶事業がボトル缶主体に成長(販売総缶数 約 15%増、うちボトル缶 約 80%増)
全社営業利益	→ セメント、加工の利益ウェイトがアップ
金融収支	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 借入金減少等による金利負担低下
持分法損益	<ul style="list-style-type: none"> ◆ SUMCO社:体質強化及び当社保有持分低下（当社持分 約28% → 約18%）
全社経常利益	→ 経営コントロールがより効きやすい体質へ
ネットDELシオ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 財務体質の改善進展（1.3 → 0.9倍）

総括

攻

◆中期経営計画に掲げた成長戦略の確実な実行

不透明な経済情勢の中にあっても、主力3事業を中心に成長戦略を確実に実行し、次なる飛躍に向けて成長基盤を強化。

守

◆景気悪化などに対するスピーディな対応

景気悪化などの外部環境の変化に対しては、危機を察知する仕組みを機能させ、危機が予見された場合には速やかに対応。

Materials Premium 2016

～NO.1企業集団への挑戦～

◆お問合せ先◆

三菱マテリアル株式会社 広報・IR部

〒100-8117 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館

TEL : 03-5252-5206 FAX : 03-5252-5272

URL : <http://www.mmc.co.jp/>

本資料における見通しは、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料業績予想と大きく異なる可能性があります。